幼

六年

画数 5
筆順 幺 幻 幼
オン ヨウ
クン おさな＝い

成り立ち

「まゆから引き出したばかりの糸」という意味を表した〝幺〟と、〝力〟という字とを組み合わせて作った字です。

「まゆから引き出したばかりの糸」は、細くて弱いので、「弱い力」という意味を表しています。

「生まれて間もない〝弱い力〟の〝おさな子〟」の意味に使われます。

使い方

▽ぼくのおじいちゃんと、おとなりのおじいちゃんとは幼友だちだそうです。もう六十年以上も仲良くつき合っているのですから、おどろいてしまいます。

▽学校から帰りの道で、幼稚園の先生に会いました。「しばらく会わないうちに大きくなったわね」とおっしゃいました。

熟語例

▽幼友だち（幼い時の友だち）
▽幼なじみ（幼い時に馴れ親しんでいた人）
▽幼心（子供心）
▽幼顔（幼い時の顔つき）
▽幼児（幼子。まだ学校に入らない子供のこと。）
▽幼時（幼い時。子供のころ）
▽幼稚（稚は未熟な稲のことで〝幼い〟意味に使われます。〝幼い〟こと。また、〝未熟〟の意味にも使われます。）
▽幼稚園（学校に入る前の幼児が行く学園）
▽幼虫（卵からかえったばかりの虫）
▽幼魚（卵からかえったばかりの魚。〝稚魚〟）

欲

六年

画数 11
筆順 ハ 谷 谷 欲
オン ヨク
クン ほっ＝する・ほ＝しい

成り立ち

「中に入れる」という意味の〝容（5年831）〟と、「口を大きく開けた形」を表した〝欠（4年503・飲3年255）〟とを組み合わせて作った字です。

「口を大きく開けて、食べ物を入れる」ことを表した字で、〝食欲〟を表したものです。

今では、〝食べ物〟に関係なく、「物をほしがる（ほっする）」という意味に使われています。例欲望、欲求。

また、「物事をしたいという気持ち」や「物をほしがる気持ち」の意味に使われます。例意欲、食欲、物欲、私欲、欲深。

使い方

▽欲望というものには限りがありません。一つの物が手に入ると、また別の物が欲しくなるものです。適当な欲求があるのは良いことですが、あまり欲張るのは良くないことです。

▽何事にも意欲をもって取り組みたいものです。意欲が無ければ、立派な仕事や勉強はできません。若い頃は勉強がよく進みます。向上したいという欲求を持って、力いっぱいがんばりましょう。

熟語例

▽欲望（こうしたい、あれが欲しいと、願う心）
▽欲求（欲しがり、求める心。「欲求不満」は、欲求が満たされなくて、ものたりない気持ちのことです。）
▽意欲（積極的に何かをしたいという気持ち）
▽食欲（食べたいと思う気持ち）
▽物欲（物に対する欲望。「彼は物欲が強い」などというふうに、つかいます。）
▽私欲（自分の利益だけを追求する心。「私利私欲にかられた悪人」などというふうに、つかいます。）
▽欲深（欲が深い人）